高体連会報
青春の躍動

発行
島根県高等学校体育連盟
TEL(0852)26・3842 FAX(0852)26・3695
発行人◇山本篤治
編集◇高体連研究部
印刷◇たど印刷

栄えある全国入賞

写真提供：山陰中央新報社

「2012北信越かがやき総体」

「2012 北信越の熱い夏」

会長　山本　篤治

今年度の全国高校総体「2012北信越かがやき総体」が、「君は今希望とともに緑の大地をかけぬける」のスローガンのもと、新潟県を主会場に、北信越5県で開催されました。新潟県は、各競技がそれぞれ実施していた大会を、総合体育大会として開催した最初の県であり、今年で50回を数える記念の大会でもありました。

総合開会式は、7月28日新潟市朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催され、島根県選手団は、空手道、陸上競技、ボクシングの3競技の選手・監督と本部役員を合せて30名が参加しました。

開会式に先立ち、選手の激励式を行い、インターハイでは初めて、県教委から教育監に参加いただき、花田教育監から激励を受けて、選手は健闘を誓いました。教育監は、幾つかの競技を視察され、高校生アスリートが躍動する姿を目の当たりにして、あらためて部活動のすばらしさを実感されたそうです。

公開演技は、佐渡おけさや、朱鷺をイメージした静かで優雅な創作ダンス、それとは対照的に、整然と迫力あるマーチングや、チアリーディングをうまく組み合わせた演出で、随所に北信越らしい演技でした。翌日から、手分けして各会場の応援に回りましたが、新潟県から福井県まで、高速道でも400㎞以上、電車でも5時間と広範囲の競技会場となり、すべてを応援に行くことはできませんでした。しかし、応援した各会場では、選手は島根県代表として本当に輝いていました。

成績は、ホッケー横田高校の準優勝、陸上競技男子一一〇㍍ハードル矢田弦選手（松江北）が2位、サッカー立正大学淞南高校の3位をはじめ、11競技15種目で8位以内に入りました。

入賞された選手の皆さんへ心からお祝い申し上げます。優勝種目がなかったことは残念でしたが、昨年に比べて入賞競技数が、2競技増えたことは評価できます。特にサッカーの立正大学淞南高校の連続上位入賞は、ホッケー同様に、全国の雄としての位置を、不動のものにしました。

カヌー（出雲農林高校）、フェンシング（安来高校）は昨年に続く入賞、弓道女子団体（松江北高校）は、全国選抜大会優勝に続く4位入賞、卓球男子団体（出雲北陵高校）は、インターハイ初のベスト8、ボクシングは全国選抜大会の曽田翔貴選手（出雲西高校）に続く、三代大訓選手（松江工業高校）の入賞、陸上競技女子二〇〇㍍の青山聖佳選手（松江商業高校）は1年生での入賞など、各競技で着実に力をつけているといえます。

視察したソフトボール女子やバレーボール男子、バスケット女子など、入賞を逸した競技でも、最後まであきらめない姿勢を見せてくれました。

県高体連事務局では、「島根の元気は高校生アスリートから」をスローガンに、日頃から事業を推進しています。今回の活躍もオリンピックに負けないくらい県民に元気を与えてくれました。新チームの皆さんには、来年度に向けて日々研鑽され、先輩達よりさらに活躍されることを期待しております。

「連覇を懸けて…」

横田高校男子ホッケー部　主将　朝倉　祐樹

試合終了のブザーが鳴り、メンバー全員が肩を落とした。喜ぶ相手選手を見るのはとても辛かった。あと一歩のところで、連覇という夢を叶えることが出来なかった。

昨年の十月、「三冠」を目標に新チームが始動した。全員が高い意識と向上心を持つことを課題にし、練習に取り組んだ。新チームになってから最初の全国大会となる三月の選抜大会。メンバーのほとんどが初となる全国大会の舞台だった。結果はベスト8。皆自信はあった。強豪校との練習試合などでも、通用する力はあると確信していた。しかし勝負は一度きり。いざ本番になると緊張で本来のプレーが出来ず、精神面での甘さを思い知らされた。選抜での負け以降、「いつも通り」と試合の度に皆が口々に言うようになった。それから少しずつチームが変わり始めた。全員が落ち着いてプレーできるようになり、調子の波も無くなっていった。そして夏のスポーツの祭典である、インターハイを迎えた。昨年は無失点での完全優勝。今年のチームにかかるプレッシャーはとても大きかった。そうした中で初戦が始まった。試合開始直後、選手たちの動きは固く、早々に先制を許した。しかし皆は焦らなかった。すぐに同点、そして逆転。先制されながらも自分たち本来のプレーが出来た。よいスタートを切ることが出来た。その後、準々決勝、準決勝とどちらも苦しい試合をものにし、遂に決勝に駒を進めた。相手は昨年と同じく滋賀県の伊吹高校。選抜大会の優勝高でもあった。試合開始早々、すぐに先制点を奪った。その後も攻め続けたが、なかなか追加点を上げられない。徐々に足が止まり始め、相手にペースを握られる時間が続いた。一瞬の隙をつかれ失点。更に逆転を許した。最後の最後で力尽き、準優勝という結果に終わった。しかし、この負けから自分たちに足りないものが何かを学んだ。試合後、チームメイトの一人が、「このメンバーで決勝の舞台に立ててうれしかった。」と言ってくれた。その時、「次こそこの最高のメンバーと優勝をいう最高の瞬間を分かち合いたい。」と強く思った。国体は三年生にとって最後の大会。今までお世話になった方々に恩返しできるよう、必ず勝って有終の美を飾りたい。

ホッケー　男子準決勝で攻め上がる横田の和久利裕貴

ホッケー　男子準決勝

松江北高校陸上部　矢田　弦

高校生活最後のインターハイは、特別な思いで臨みました。昨年、一昨年とリレーで出場しましたが、個人種目で出場することができず、悔しさを味わってきました。もう二度と「悔しい思いはしたくない」と心に言い聞かせ、日々の生活の中で自分に足りないものを模索し、練習は誰よりも集中して行いました。

冬期練習は順調に進み、二月に行われた大阪室内陸上大会で優勝することができ、自分なりに手応えを感じていました。ところが、三月に行われた校内球技大会で捻挫をしてしまいました。その瞬間、「すべてが終わった」、「こんなことで自分の三年間は終わってしまうのか」そんなことを、グラグラに緩み、腫れあがった左足首を見ながら思っていました。そこへ顧問の先生が来られ、すぐに病院へ連れて行って下さいました。こんな僕のことを真剣に考えて下さった先生の姿をみて、「絶対、あきらめない」という決意をしました。陸上部の仲間からも励ましの言葉をもらい、心の底から力が湧いてくる気がしました。一週間の松葉杖生活を乗り越え、上半身や体幹トレーニングをひたすら続けました。不安や焦りもありましたが、自分を信じてできる事は全てやりました。そして県総体、中国大会に何とか出場し、インターハイへの出場権を獲得できました。

その後、怪我も回復し、迎えたインターハイ。予選のレースでは、エネルギーの消費を極力抑え、余裕を持って走ることだけを考えました。接戦が予想された準決勝では落ち着いた走りで、一着でゴールすることができました。記録的にも自己ベストを更新し、決勝に向けて勢いをつけるレースとなりました。決勝を間近に控える僕に、仲間は力強い励ましや、マッサージなどできる限りの事をしてくれ、一人ひとりの思いが伝わり、非常に嬉しく感じました。そして皆の気持ちを一身に背負い決勝のレースへと向かいました。

一度はあきらめかけたインターハイ。決勝前の招集所では、何度も自分に言い聞かせました。「決勝のスタートラインに立てるのは、多くの方々の支えがあったから…、決して自分の力だけではない。お世話になった方々への恩返しは、このレースで勝つことだ」と。決勝のスタートラインに立ち、僕の名前がアナウンスされると、スタンドから仲間達の大きな声援が届きました。「位置について」の合図とともに、「皆がついている」、自分に言い聞かせてスタートラインに着きました。号砲に全神経を集中させ、良いスタートが切れました。7台目で自分が先頭であることに気づき、このままゴールしてくれと祈りながら10台目を跳び越えましたが、隣のレーンから迫ってくる人の気配を感じました。倒れ込むようにしてフィニッシュし、大型スクリーンのリプレイを祈るような思いで見つめました。僅かに先行される自分の身体・・・その瞬間、自分が2位であることとわかりました。負けたことはとても悔しかったのですが、応援して下さった方々への恩返しを果たせなかった事の方が悔しく感じられました。

この結果を真摯に受け止め、これからの人生に生かしていくことが僕の使命だと思っています。これからも感謝の気持ちを忘れず、自分自身が成長できるよう頑張りたいと思います。

陸上競技　110m障害決勝

松江北高校弓道部　古川　瑞紀

高校生活の最後の弓をインターハイで引き終えたとき、私たちは今まで支えてきてくださった方々への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

春の全国選抜大会を優勝してから、周囲からの見る目が変わり、県総体の優勝やインターハイ出場を期待される中、私たちは5人団体戦の県総体に出場しました。結果は、団体戦で優勝できたものの、私自身は大会期間中不調が続き、チーム全体としても個人戦入賞なし、総合二位という決して満足できるものではありませんでした。それから一ヶ月後におこなわれたインターハイは、三年生の選手は補習や放課後学習が始まるなど、放課後のわずか一時間程度の練習で迎えることになりました。このような状況は経験したことがなかったので、私たちは精神的にも身体的にも追い込まれた状態でした。

各自が多くの課題を残したまま、インターハイは始まりました。予選を20射12中で通過し、トーナメント一回戦では春の選抜大会でも戦った強豪校倉吉西高校と当たることになりました。一回戦から昨年ベスト4の実力を持つ高校との試合で弱気になっていた私たちでしたが、監督の「楽しんで弓を引いてこい。俺はお前たちを信じている」という言葉で、私たちはお互いを信じて自分を見失うことなく、一射一射に気持ちを入れて引くことができました。一回戦は接戦となりましたが何とか勝ち上がり、二回戦、昨年インターハイ優勝校の秀岳館高校との試合に進むことになりました。緊張とプレッシャーに負けそうになりましたが、ここでも「弓道を楽しむ心を忘れずに、自分の実力を出し切ろう」と呼びかけてから挑みました。この二回戦でも勝つことができ、当初の目標だったベスト8入りを果たせた喜びを、私は忘れることはないと思います。

迎えた大会最終日、準々決勝では今大会チーム最大的中の20射17中を出すことができました。準決勝さらに3位決定戦ではあと1本というところで負け、三年生の高校弓道は4位という結果で終えることになりました。

春夏連覇こそなりませんでしたが、このベスト4という結果に、満足しているかと聞かれるならば、私はしていると答えます。それは弓道がただ、的に中てるだけの競技ではないからです。このベスト4は、先輩方や共に練習してきた仲間たち、先生方、保護者の方々など多くの支えがあったから、また「文武両道」を掲げる松江北高校だったから、そして最後までチームの仲間を信じ、自分の弓道を楽しめたからこそつかめた結果だと思うからです。この二年半の間、弓道を通じて様々な人に出会い、大切なことを学んだ私は大きく成長できました。これから活躍する後輩たちにも、私よりさらに大きく成長してもらい、感謝の気持ちを忘れないで弓道を楽しんでもらいたいと思います。

弓道　女子団体3位決定戦　松江北 VS 宮城一

なぎなた　団体　第5位　出雲北陵高校

サッカー　第3位　立正大学淞南高校

陸上競技　男子棒高跳　第7位　大社高校　金山　周平

カヌー　男子カナディアンフォア500m　第5位　出雲農林高校

平成24年度 全国高等学校総合体育大会「2012北信越かがやき総体」島根県選手団 入賞一覧

成績	競技	種目	氏名	学校
準優勝	ホッケー	男子	横田高校	
2位	陸上競技	男子110mH	矢田　弦	松江北高校
3位	サッカー	男子	立正大学淞南高校	
4位	弓道	女子団体	松江北高校	
5位	卓球	男子団体	出雲北陵高校	
5位	フェンシング	女子団体	安来高校	
5位	なぎなた	団体	出雲北陵高校	
5位	カヌー	男子カナディアンフォア500m	出雲農林高校	
5位	陸上競技	男子100m	金森　和貴	松江北高校
5位	陸上競技	女子200m	青山　聖佳	松江商業高校
5位	ボクシング	ライト級	三代　大訓	松江工業高校
6位	陸上競技	男子200m	金森　和貴	松江北高校
6位	水泳(競泳)	男子100m背泳ぎ	加藤　理	出雲西高校
7位	陸上競技	男子棒高跳	金山　周平	大社高校
7位	ボート	男子シングルスカル	岡田　信志	松江工業高等専門学校

※各競技の実施要項によらず、8位以内を記載しています。

ボクシング　ライト級　第5位　松江工業高校　三代　大訓

陸上競技　男子100m　第5位　200m　第6位　松江北高校　金森　和貴

陸上競技　女子200m　第5位　松江商業高校　青山　聖佳